

授業実践とその参観から学んだこと

視点1

商業班 県立館林商工高等学校 第2学年 浜口 裕行
桐生市立商業高等学校 第2学年 小島 雄一

生徒が自ら考え、主体的に取り組める工夫

- 身近な題材・具体例を設定することや実習などの増加、生徒の考えを引き出す発問の工夫などによって、「生徒が自ら考え、主体的に取り組む」授業を実践できることが分かった。
- 教師が「教える」部分と生徒自身が「主体的に取り組む」部分とのメリハリのある授業展開は、授業への参加意識と満足感・達成感に繋がるとともに、知識の習得と定着を図る上でも有効であることを学んだ。

視点2

学習内容に関する身近な題材や具体例の設定

- 教師の経験や生徒の実体験に基づいた日常生活の中から、身近な題材や具体例を設定することで、生徒の興味を惹きつけ、特に授業の導入部分において大きな効果を得られることが分かった。
- 生徒にとって「具体的なイメージ」をもてる題材や具体例を設定することで、授業に積極的に取り組む姿勢ができ、学習内容の理解と知識の定着を促進する上で効果があることを学んだ。

視点3

普通教室内におけるICTの活用

- ICTを活用することで、準備した教材を、視覚的に分かりやすく提示できることを学んだ。
- 教材を効果的に提示することで、生徒に気付きや発見を与え、自ら考え、主体的に取り組む時間を確保できることを学んだ。
- 普通教室における普段の授業でも、ICTの活用を進めていく必要性が分かった。